

理事長あいさつ

平成 27 年度は、「全国都市緑化祭」にご臨席された秋篠宮同妃両殿下の視察先として「介助犬総合訓練センター～シンシアの丘」が選ばれ、センター施設をご視察いただき、介助犬デモンストレーションおよび介助犬使用者様をご紹介させていただいた記念すべき年となりました。ひとえに皆様からのご支援の賜物と厚く感謝申し上げます。

介助犬貸与事業は、介助犬希望者は増加傾向にあるなかで候補犬の確保につき難渋しつつも、神奈川県と沖縄県の 2 組の介助犬使用者が誕生しました。また、聖マリアンナ医科大学病院へ貸与した勤務犬指導や障がい者・障がい児へキャリアチェンジ犬を譲渡し元気に前向きになって頂ける協力にも取り組みました。これからも犬を介した医療・福祉への貢献を果たせるよう取り組んでまいります。そのためにも職員の見識の拡大と技術向上のためにリハビリテーション専門機関等との連携を深める研修派遣にも引き続き取り組みたいと考えております。

平成 28 年度は、身体障害者差別解消法が施行され、社会福祉法等が大きく改正されるなか、協会を取り巻く課題は山積しておりますが、当会理念「人にも動物にもやさしく楽しい社会をめざして」をモットーに、役職員一丸となり、柔軟かつ精力的に取り組んで参ります。これからも皆様のご指導とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

社会福祉法人 日本介助犬協会
理事長 大島 慶久

1. 介助犬訓練事業

(1) 肢体不自由者に対する介助犬貸与

介助犬総合訓練センターにて、2組の合同訓練を行い、指定法人より認定された。

(2) 犬の飼育及び訓練

① 候補犬の訓練

候補犬 41 頭を確保し、訓練を行った。

② パピーに対する訓練及びパピーホームボランティアに対して飼育指導

6 ヶ月齢・9 ヶ月齢でのパピー評価を開始し、介助犬への可能性の高いパピーに対して早期訓練を開始した。

(3) 繁殖、パピー、候補犬としての成犬の導入

① 自家繁殖により 5 回の出産を行い、25 頭のパピーを確保した。

② クイーンズランド盲導犬協会からの 7 頭のパピーを導入した。

(4) 介助犬使用者に対する継続指導

① 継続指導

新規認定者を除く全使用者 21 名に対し、「アフターチェック表」、「介助犬健康診断書」を送付し、書面による現状把握を行ったのち、訪問により実際の生活状況の確認を行った。新規使用者に対しては 1 回/月程度の継続指導を行い、その他の使用者に対しても障がいの進行によるニーズの変化など、必要に応じた再訓練を行った。その他電話・メール等での継続指導を行っている。

② 使用者交流会

使用者同士の情報交換とハンドリング技術の向上を目的とした「使用者の集い」を 10 月 3 日(土)~4 日(日)に訓練センターにて開催した。参加ペアは 10 組であった。

(5) 就労支援

使用者の再就労に向け、就業支援センターと連携を図った。

2. 人材育成・研究事業

(1) 訓練担当者の訓練技術向上

職場内研修及び OJT により新人職員への訓練指導を行った。

(2) 飼育管理における技術向上

外部講師による定期的なレッスンや職場内研修及び OJT による新人職員への指導を行った。

(3) 繁殖担当者の養成

職員一名が、北海道盲導犬協会で繁殖業務の研修を受けた。

(4) リハビリテーションセンターにおける研修

職員一名が、横浜市総合リハビリテーションセンターで2か月、名古屋市総合リハビリテーションセンターで1週間の研修を受けた。

(5) 研修生の募集

第11期研修生の募集を行った。

3. 相談・指導助言事業

(1) 介助犬希望者への相談

① 介助犬体験会・相談会

介助犬に関心のある障がい者を対象に体験会を実施した。(関東2回、センター1回、北海道1回)

(全国労働者共済生活協同組合連合会、中央共同募金会による助成事業)

② 体験入所

介助犬取得に関心のある障がい者を対象に体験入所を実施した。(実施回数4回)

(中央共同募金会による助成事業)

4. 補助犬関係団体協力事業

(1) 補助犬団体との連携強化

北海道盲導犬協会での訓練犬評価への参加及び繁殖業務のための訪問、日本盲導犬協会、東日本盲導犬協会、関西盲導犬協会、ライトハウス、九州盲導犬協会、からの成犬導入(評価入所含む)を行った。

(2) 諸外国の補助犬団体との連携強化

① ADI(Assistance Dog International)の認可団体になるために候補団体としての申請を行った。

② 職員一名が Kyno-Logisch(スウェーデンの盲導犬育成事業者)を訪問し、犬の導入についての情報交換を行った。

5. 調査研究事業

(1) 日本身体障害者補助犬学会への参加

学会へ団体会員として加盟し、シンポジスト一般演題発表を行った。

日本身体障害者補助犬学会 第8回学術大会

【一般演題】

介助犬使用者に対する介助犬貸与前後の比較	訓練部 櫻井 友衣
介助犬使用者の就労に関する調査報告	訓練部 柴原 永佳
介助犬ケープの改良	訓練部 細谷 さくら
ボランティア登録者の登録希望理由調査と今後の登録者獲得に向けての展望	広報部 高野 菜摘

【シンポジウム】

補助犬が招く楽しい旅、やさしい社会 2020 に向けて	事務局長 高柳 友子
-----------------------------	------------

(2) リハ専門職等との補助具の開発

リハ専門職、義肢装具企業と連携し、使用者が介助犬と暮らすために必要な車いすに取り付けるリードフックや飼育管理用具の作成をした。

(3) 肢体不自由者のニーズ調査

全国の福祉機器展にてアンケート調査を行った。

(中央共同募金会による助成事業)

(4) 新たな分野の調査研究

病院からの動物介在活動や動物介在療法について協力要請の相談があり対応した。

6. 社会及び地域貢献活動

(1) 訓練犬、PR犬を使った病院等(聖マリアンナ医科大学病院)での訪問活動の実施

聖マリアンナ医科大学病院への勤務犬貸与及びハンドラー養成(5月ハンドラー認定)。継続した指導実施を行った。

(2) 障がい者・障がい児に対して、自宅で役立つキャリアチェンジ犬譲渡

肢体不自由者2名に対してキャリアチェンジ犬を譲渡した。

発達障がい児のいる二家庭にキャリアチェンジ犬を譲渡した。

7. 普及啓発事業

(1) 普及啓発イベント・講演会の開催

① 「介助犬フェスタ 2015」を開催した。

・身体障害者補助犬法の周知、介助犬への認知度向上を目的とし、愛・地球博記念公園・地球市民交流センターにて開催した。午前中は雨天に見舞われたが5,000名を超える参加があった。

・感謝の集いを開催し、個人・法人会員、支援・協力企業、ボランティアに対して、1組の介助犬ペアが誕生したことを報告した。

② 地域に根ざした講演会を開催した。

実施日	名称	回数	参加者数	開催場所
毎月第2土曜日 (5・3月を除く)	一般見学会	10	556名 (総数)	センター
7月30日(木)	子供向け見学会	1	57名	センター
8月1日(土) 8月9日(日)	介助犬教室	2	1日15名 9日19名	ダッドウェイ
8月23日(日)	夏休み介助犬イベント	1	1,216名	ららぽーと横浜
3月5日(土)	オープンハウス	1	350名	センター

③ はたらくワンワンランド(JA共済連主催)

46件を実施した。

(福島県、茨城県、栃木県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、

愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、島根県、岡山県、徳島県、高知県、佐賀県、熊本県、鹿児島県 以上 20 都府県)

④ リハビリテーション専門職向けセミナーの開催

10月10日(土)に旭川医科大学にて開催し、21名の参加があった。(中央共同募金会による助成事業)

⑤ イベント・講演依頼を受け実施した。

- ・イベント・講演会 …… センター:169件 本部:108件
- ・訓練センター視察 …… 71件
- ・職場体験学習の受け入れを9校16名に対し行った。

(2) デモンストレーター養成

啓発活動に特化したボランティア養成として、「介助犬デモンストレーター講座(初級)」を実施した。

- ・開催回数:センター1講座(3回)
- ・受講者数:センター15名

初級講座の受講者を対象に、定期的に「介助犬デモンストレーター中級講座」を実施した。本部にて2月7日講師を招聘し、中級講座の一環として講演を実施した(4名参加)。現在デモンストレーションのMCとしてセンター7名、本部5名が活躍している。

(3) 普及啓発街頭募金活動

① 街頭募金啓発活動を行った。

本部:23回 センター:20回

② 小学校・中学校・スカウト隊・慈善団体等主催の街頭活動に協力参加した。

(4) 募金箱設置

新規103個の設置を行い、全設置個数は2,210個となった。また、募金箱設置店への募金回収やリーフレット補充を行った。

(5) PR 犬の育成・訓練の実施

介助犬啓発活動に参加するPR犬の作業力維持、並びに広報部職員の技術向上のため、訓練部と連携しPR犬9頭の育成・訓練を行った。

また訓練部とも連携し、情報共有・技術向上ために定期的にPR犬ミーティングを実施した。

(6) ボランティアの確保

年4回の交流会を開催しボランティアの方々との友好を深めた。

センター:4月26日(土)、12月28日(月)

本部 :9月26日(土)、3月20日(日)

(7) 賛助会員の新規入会促進・管理と継続支援者の確保

個人会員:1,665件 法人会員:114件

法人会員へ継続的な支援のお願いのため訪問に努めた。

(8) 『ほじょ犬の日』登録

『ほじょ犬の日』5月22日(金)普及啓発イベント・講演会においてPR活動を行った。

8. 広報活動

(1) マスコミ対応

以下のように取材を受けた。

内 訳	件 数
新聞掲載	38 件
テレビ放送	16 件
ラジオ放送	17 件
雑誌・広報紙掲載	31 件
合 計	102 件

(2) 広報物の作成

短期貸出用紙製募金箱のデザインをリニューアル作成した。また、平成 27 年度のあゆみ(新聞記事掲載集)を作成した。

(3) 会報・HPの制作

会報作成においては編集委員会で企画提案を実施した。また、HP では各ページの改良を重ねた。

(4) ツイッター・フェイスブック等の活用

更新を頻繁に行いフォロワーや「いいね」数を増やし介助犬の啓発を行った。

ツイッター:フォロワー数 …1,686 件 フェイスブック:「いいね」数 …5,852 件

9. 補助・助成

(1) 介助犬貸与に関する補助

平成 27 年度認定者在住の神奈川県、沖縄県より、介助犬貸与に対して給付される予定。

都 道 府 県 名	助 成 額
神奈川県	165 万円
沖縄県	200 万円

(2) 啓発事業に関する補助

愛知県より介助犬啓発事業の補助、長久手市より介助犬広報啓発事業の補助として補助金が支給された。

(3) 助成団体事業

名 称	金 額	事 業 内 容
全国生活協同組合連合会 ・社会福祉法人 中央共同募金会(200 万円) ・全国労働者共済生活協同組合連合会(100 万円)	300 万円	障がい者の社会参加および就労支援のための介助犬普及啓発事業

毎日新聞大阪社会事業団シンシア基金	50 万円	ボランティア育成講座(犬関連)
在日米国商工会議所 中部支部	25 万円	海外からの犬購入費と海外渡航費
神奈川福祉事業協会	120 万円	車輛購入費

(4) 団体・企業等(使途指定寄付)

名 称	金 額	内 容
デンソーはーとふる基金	275,000 円	介助犬育成・訓練に必要な物品(フリーダムハーネス、バランスボール)の購入
Boeing Japan 株式会社	5,000ドル	介助犬育成普及プロジェクト(英語版リーフレット、啓発シールなどの制作)
一般社団法人 MDRT Foundation-Japan	5,000ドル	介助犬啓発プロジェクト

10. 管理・運営

(1) 理事会・評議員会(年 3 回)の開催状況

定款に定める理事会・評議員会を開催し、定款施行細則に定める議決事項等につき適正な運営に努めた。

＊役員等体制の状況(平成 28 年 3 月 31 日現在)

会 長 … 1 名 顧 問 …1 名 理 事 … 6 名 監 事 …2 名
 評議員 … 14 名 第三者委員…2 名

(2) 事業推進会議(月次)の開催

協会活動の円滑な遂行を図るため、組織規程(第 5 条)に定める事業推進会議を毎月開催した。

(3) 職員体制の状況(平成 28 年 3 月 31 日現在)

職員 32 名(正職員 24 名、契約職員 4 名、パート 4 名)

(4) 職員会議・研修会の開催

①組織規程に定める全体会議を半期単位で開催した。

②今後の協会を担う主任・副主任研修会を 8 回開催し人材育成に取り組んだ。

③職員の防災意識の向上と管理体制強化のため、防災訓練を本部、センター各 2 回行った。

(5) 社会福祉法人新会計基準への移行

津田明人税理士事務所の指導のもと、社会福祉法人新会計基準への移行を完了した。

(6) 個人情報保護体制の整備

個人情報保護規程を整備し、理事会・評議員会にて承認された。

(7) 会員名簿ソフトのアップグレードと情報集約

会員名簿ソフトに機能追加のアップグレードを施し業務効率を向上させた。また、情報集約の為にデータベースソフトの使用を開始した。

(8) 苦情解決への取組み

苦情解決の仕組みについて第三者委員を設置し、HP・施設内に苦情解決責任者（事務局長・センター長）・苦情受付担当者（訓練部長・訓練部長補佐）の公表周知に取り組んだ。